

一般社団法人 National Clinical Database

2025 年度事業報告書

National Clinical Database（以下 **NCD**）は臨床現場の医療情報を体系的に把握し、医療の質の向上に資する分析を行う。その結果をもって市民に最善の医療を提供し、適正な医療水準を維持することを目的とする。2025 年度は、以下の事業を実施した。

（1）医療情報を集積したデータベースの維持管理及び提供について

- 医療技術等の進歩を踏まえ、より適切で更なる利活用が可能となるようなデータの収集を目指し、各領域のデータ入力仕様の改修要望を学会から受け付け、データ登録プラットフォームの構築を進めた。
- **JCVSD-A**、**JCVSD-C**、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、**J-PCI** 等の領域で、**NCD** データに基づく手術のリスク情報等を施設診療科が確認できるフィードバック関連機能の開発等を通し、各学会による医療の質の改善活動を継続的に支援した。
- **DPC** 集積システムの管理及び運用を継続し、レジストリデータと連携した **DPC** 情報の利活用を各学会と協働のもと推進した。
- **NCD** において、がん登録データベース（乳癌・膵癌・肝癌・胃癌・食道癌・腎癌・前立腺癌・膀胱癌・胆道癌・精巣癌・腎盂尿管癌等の領域）の維持管理及び開発を進めた。
- 症例登録において、追跡調査の補助機能を継続的に開発し、フォローアップ情報の入力向上と状況把握を支援した。
- ユーザーの症例データ入力負荷を軽減するため、院内情報システムと症例登録システムの連携を可能とするアップロードの仕組みを整備した。

（2）データベースを活用した医療水準の評価及び臨床研究の支援について

- **NCD** データを用いて、参画する学会との協働のもと、日本における医療政策の立案と基盤となるエビデンスを創出する取り組みを推進した。
- 各領域の学術調査やアニュアルレポートにおいて、定型的な集計業務のシステム化を推進した。
- データの質の検証業務にリモート型を含め、各領域でのデータ検証を支援した。
- 自施設データダウンロード機能を継続的に更新し、医療品質の評価等に寄与した。
- 各領域との共同研究開発において、研究実施体制の整備やデータ分析・評価のための支援を行った。
- 各領域の学術調査や研究の活性化を支援するため、データの適切かつ安全な利用を確保しつつ、学会推薦の解析者による研究支援の手続を一部見直し、契約関係書式の標準化等の整備を行った。

（3）データベースの運用による関連団体との業務連携について

- 専門医制度との連携において、各種申請システム等の開発及び維持管理を継続して行った。
- 産学官連携において、医療機器等に関する製造販売後調査等を支援した。
- 各領域の学術集会などで、**NCD** のデータ収集状況や利活用の方法について周知支援した。

(4) 法人の目的を達成するために必要な関連事業ならびに業務について

- 症例登録に当たっての専門的な知見の習得や入力効率化を図るため、データマネージャー等のユーザー向けのセミナーを継続して開催した。また、臨床医を対象とした **NCD** を利用した研究のための教育プログラムについて実施した。
- 産学連携を積極的に推進し、データの利活用等により、**NCD** の財政基盤の強化に貢献する施策を検討した。
- クラウド化したサーバーの維持管理コストの財源を確保するため、施設会費の改定や学会負担のシステム運営費の見直しを行い、持続的、安定的な経営を目指しているところ検討を重ねた。また、クラウド使用料を縮減するため、より効率化した運用を検討し実施した。
- 個人情報の適正な取扱い及び知的財産の管理を行い、業務上のリスクアセスメントを適宜実施した。
- 職員及び関係者の情報セキュリティに関する教育を継続して行った。
- 先進的な技術的基盤に基づき、業務の効率化と信頼性を向上させ、より高品質で持続可能なシステムの構築を目指し、検討を重ねた。

以上